

情 報 公 開 文 書

研究の名称	Invasive intraductal papillary mucinous carcinoma (IPMC)に対する術後補助療法の有用性に関する後ろ向き観察研究
整理番号	
研究機関の名称	国立大学法人 富山大学
研究責任者	学術研究部医学系 外科学(消化器・腫瘍・総合外科) 教授 藤井 努
研究の概要	【研究対象者】 浸潤性膵管内乳頭粘液癌 (invasive IPMC) の患者さんで、1996 年 1 月 1 日から 2018 年 12 月 31 日までの期間中に、手術による切除を受けられた方。 【研究の目的・意義】 通常型の膵臓癌では、手術で切除した後に、再発予防を目的とした抗癌剤治療を行うこと（術後補助療法）で、膵臓癌患者さんの生存期間が延長することは既に証明されています。一方、浸潤性膵管内乳頭粘液癌 (invasive IPMC) に対する術後補助療法の生存期間延長に関する有用性は証明されていません。 本研究は、浸潤性膵管内乳頭粘液癌 (invasive IPMC) に対して、手術で切除した後に、術後補助療法を行うことで、再発の頻度を低下させ、生存期間延長につながるかを検討することを目的としています。本研究により、浸潤性膵管内乳頭粘液癌 (invasive IPMC) に対する、術後補助療法の生存期間延長に関する有用性を証明できれば、浸潤性膵管内乳頭粘液癌 (invasive IPMC) 患者さんの生存期間延長に多いに貢献できます。 【研究の方法】 本研究は、日本膵臓学会のプロジェクトとして行います。中央研究機関は、和歌山県立医科大学外科学第 2 講座で、約 30 施設の日本の施設が参加します。 手術により切除した後に術後補助療法を受けられた浸潤性膵管内乳頭粘液癌 (invasive IPMC) の患者さんと受けられなかった患者さんの再発頻度と生存期間を比較し、浸潤性膵管内乳頭粘液癌 (invasive IPMC) に対する術後補助療法の有用性を検討します。 【研究期間】 承認日～2022 年 10 月 31 日 【研究結果の公表の方法】 学会発表および学術雑誌への掲載による公表 本研究の研究計画書などの詳しい情報を知りたい方は、相談窓口までお申し出ください。
研究に用いる試料・情報の項目と利用方法 （他機関への提供の有無）	【研究に用いる試料・情報の項目】 この研究で利用させて頂くデータは、性別、年齢、手術術式、病理診断、術後補助療法を受けられたかどうか、術後補助療法を受けられた場合の化学療法の種類、治療開始までの期間と治療期間、再発確認日、再発部位、最終診察日に関する情報です。 【利用方法】 以下の項目について調査を行い、そのデータを本研究に利用する。

	生存期間 無増悪生存期間 治療継続期間 【他機関への提供の有無】有
研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名	和歌山県立医科大学外科学第2講座 教授 山上 裕機
研究資料の開示	研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。
試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名）	和歌山県立医科大学外科学第2講座 講師 廣野 誠子
研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口	研究対象者からの除外（試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む）を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について、当院においては下記の窓口で対応いたします。 電話 076-434-7331 FAX 076-434-5043 担当者所属・氏名 富山大学 第2外科 助教 渋谷和人